根室っ子根性
全国大会１勝を目指します

3月、新潟県で開催の全国高等学校選抜レスリング大会をはじめ、9月に千葉県開催の国体（国民体育大会）、7月にはインターハイに出場した根室高校のレスリング部。

北海道では競技人口が少なく、部内での練習が中心となるため試合経験が少ない中での全国大会への出場は、決して優位な状況ではありません。

「美ら島沖縄インターハイ」では、根室からの出場の第1関門は、暑さとの戦いとなったといいます。経験のない暑さは、選手のスタミナを奪い、集中力さえも奪ってしまいました。

「環境の変化は、どこの県からの出場者も同じ。そこを克服する精神力を鍛えることも大切でした。」と、代表の下内君は振り返ります。

高校最後の大会を終えた3年生は、根室っ子の根性を見せるためにも、全国大会で1勝を上げることを目標に頑張ってほしいと、後輩にバトンを渡しました。後輩たちも、全国大会出場の経験を生かし、その期待に応えたいと目を輝かせています。

彼ら4人のファイティングポーズは、全国大会出場に込めた汗と涙の集大成。いや、明日の根室高校レスリング部へとつなげる最高の笑顔と情熱といえるでしょう。

根室高校レスリング部

下内和真くん（3年）
Kazuma Shimouchi

野陳勇雄くん（3年）
Isao Nojin

乱橋銀次郎くん（2年）
Ginjiro Ranbashi

小山翔太くん（2年）
Syota Koyama